

日本海要素植物 イワナシ (学名: *Epigaea asiatica*)

[ツツジ科 イワナシ属]



▲地面に張り付くように生えるイワナシ

今年の要害山の山開きは5月14日(日)です。スキー場からの日の当たる登山道を上り、疲れて足元に目を落とすと、地面に張り付くように広がる濃緑色で楕円形のゴワゴワした葉を見つけることがあります。よく見ると葉の陰に釣鐘型のピンク色の花が咲いています。この植物はイワナシと言います。

イワナシは、北海道西南部と本州の主に日本海側に生育する日本海要素植物※です。近畿地方では太平洋側にも分布しています。トガクシソウ型日本海要素植物と言われる、日本列島の一部に古くから生育し、日本海側の深雪に守られることで生き残った植物の一種と考えられています。冬でも落葉しない常緑の低木で、山地の斜面に多く生育しています。要害山のような明るい斜面だけでなく、尾根沿いなど岩場の樹陰に生えることもあります。茎は、斜めに伸び、2~10cm程度の大きさにしかありません。花期は4月~6月で、3~10個の花をつけます。果肉は白くて甘く、ナシに似た味がすることからこの名前がついたと言われています。只見町でも熟した実が食べられており、「いわもも」と呼ばれています。

(※日本海要素植物については、広報ただみ2017年3月号、4月号の森の四季もご覧ください)

企画展示

「多雪地帯に生きる 日本海要素植物」

期 間：7月17日(月) まで開催

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください